様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月　 ７ 日現在

機関番号：１３２０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５２０３５３

研究課題名（和文）漢文笑話の研究―江戸笑話の性格と内容について―

研究課題名（英文）The Study of Chinese Classical Jest Books

研究代表者
磯部　祐子（Isobe, Yuko）

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：００１６１６９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,500,000円、（間接経費）　750,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、江戸中期から本格的に作られていった日本漢文体笑話本全体について、版本調査を行い、作者、作品年代、所蔵状況、版本状況などを一覧表にして提示したのち、代表的漢文笑話集について考察したものである。
　そのうち、漢文笑話本の嚆矢である岡白駒『訳準開口新語』、越中高岡の漢学者寺崎れい洲による笑話本『へん譚』、大阪の学僧霊松道人の『善謔随訳』、河邑玄佑作『前戯録』、江戸の儒者山本北山『笑堂福聚』について、笑話に書き下しと訳文を施し、解釈を加え、執筆の背景を考察した。その結果、各漢文笑話集のもつ特徴およびその文学史的意味を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study is based on the Japanese Kanbun (written in classical Chinese) Jest Books of Edo period. Firstly, I researched Jest Books from bibliographical point of view. This research was based on the history, the author and the published age of each Jest Book. Secondly, I tried to analyze each of them. Especially, the work of Yakujyunshouwa (written by Oka-Hakki), the work of Hentan (written by Terazaki-Reishu), the work of Zengiroku (written by Kawamura-Genyu), the work of Zengyakuzuiyaku (written by Reishoudoujin) , the work of Shoudoufukuju (written by Yamamoto-Hokuzan) were punctuated, and translated into classical Japanese and modern Japanese. By this research, I not only clarified the features of each jest and the background of writings, but also found out the characteristics and the literary merits of each Jest Book.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学文学論

キーワード：漢文笑話　江戸時代　へん譚　前戯録　善謔随訳　笑堂福聚　小咄　中国文学

１．研究開始当初の背景

江戸時代、社会体制の安定に伴って、文学芸術などの多方面に、この時代特有の作品が生まれた。江戸前半期には、大名や大身の武家が中国の書籍を輸入し、それらから儒学を基礎とした文治体制を学んでいった。やがて、中期頃になると、儒者･浪人・町人なども和漢書を集め、文芸の裾野が広がり、江戸時代独特の文化を形成し始めた。この頃、儒学･諸子学などの漢籍に混じって、通俗ものと称される和訳の小説類も出版され、中国文化全般が社会の上下に浸透しつつあった。その中で、中国で出版された笑話書が輸入され、和刻される状況を迎えた。中国笑話書が日本に輸入されて、江戸の小咄や滑稽談に影響を与えたことは、既に研究がなされているが、当時の日本人が、中国笑話や随筆小説に手本を取り、自ら漢文体で笑話小説を作ったことは、あまり研究されておらず、石崎又造『近世日本に於ける支那俗語文学史』「第五章白話文学と国文学」、武藤禎夫による『漢文体笑話ほん 6 種』の出版と同書所載「漢文体小咄本について」の紹介以外、若干の作品紹介があるだけである。

江戸時代、太田南畝蜀山人のような幕臣が、一方で役人として勤めつつ、一方で戯作作家として活動していたが、その背景には漢籍及び和書を蒐集し、よく読解し、当時中国の文人の間で流布していた「煙粉小説もの」と即応する形で、いわゆる「吉原もの」を集めていたように、日本中国では相対応する文芸現象が起こり、社会に影響を与えていた。同様に、中国では馮夢龍『笑府』に代表される笑話集が編纂され、日本では、「滑稽もの」が江戸後期に増加していき、文学の一つの特徴にもなっていったが、この「滑稽もの」の先行として漢文体笑話が盛んに作られていたことは注目すべきである。

近年、このような、日中における類似する文芸現象、或いは朝鮮半島・越南の漢字文化圏全体にも関わる文芸現象に注目しているのが、台湾の王三慶、フランスの陳慶浩であり、『日本漢文小説叢刊』『越南漢文小説叢刊』（共に台湾学生書局刊）が既に刊行され、『朝鮮漢文小説叢刊』が編集中であり、『日本漢文小説叢刊』第一輯（５）に「笑話類」が収められる。日本では、それを受け、『日本漢文小説の世界　紹介と研究』（白帝社　2005）にこれらの研究の紹介が収められている。このように、漢文小説の収集と出版は開始したばかりであり、日本におけるこの方面の研究は急務といえる。

申請者は、これまで、江戸時代における中国文学の受容に関して、「江戸時代における中国戯曲の受容と展開」（『東北大学日本文化研究所報告』第 21 集　1985 年）、「日本江戸時代対中国戯曲的接受与発展（中国語）」（『中華戯曲』第９集 1990 年）、「中国才子佳人小説の影響―馬琴の場合―」（『高岡短期大学紀要』，vol.18、2002）、「中国才子佳人小説の版本と諸外国への影響―「金雲翹傳」と「玉嬌梨」を例に―」（『東アジア出版文化研究こはく』、2003）、「東アジアにおける中国才子佳人小説の影響―『二度梅』と『好逑伝』を中心に―」（『東北大学中国文学論集』第 10 号、2004）などの論文を表した。また、王三慶氏の勧めで、第 4 回中国古代小説国際研討会にて「従《訳準開口新語》看日本漢文体笑話的特徴」と題する論文を提出・発表し、討論する中でこの方面の研究の必要性を更に実感した。

２．研究の目的

本研究は、江戸中期頃から本格的に作られた日本漢文体笑話本を取り上げ、まず、作品の種類と版本について具体的に把握する。次に、特徴的な作品集を数種とりあげ、作者の検証を行った後、作品の出典及び江戸小咄との影響関係を検討する。同時に、当時日本に輸入されていた中国笑話書の版本調査、その和刻本の調査により、書誌・蔵書から漢文笑話の文学的バックボーンを実証的に示す。加えて、漢文笑話作者の性格を、身分や活動形態からのみならず、明末の馮夢龍や李漁といった多面的性格をもつ知識人と比較し、江戸時代の文芸活動者としての性格を明らかにし、漢文笑話にそれらが如何に反映しているかを明らかにする。具体的には

（１）江戸期の日本漢文体笑話作品の提示と版本。

（２）漢文体笑話の典故と小咄等との影響関係。

（３）漢文笑話体作家について。

（４）当時の漢学の流布及び書籍蒐集と流布。

（５）日中笑話作品の作者の比較による日本側作家の特徴。

（６）漢文笑話編纂の意図。

を、それぞれ『訳準開口新語』、『善謔随訳』、『善戯録』、『笑堂福聚』、『訳準笑話』、『困譚』などに焦点を当てて解明し、江戸時代の漢文笑話小説誕生の状況から近世日本人の思考様式の一端を紹介し、日本的「笑い」の流れを導き出そうと考える。

３．研究の方法

（１）日本における漢文体笑話作品の収集と版本調査（作者、作品年代、所蔵状況、版本状況、出版に至る経緯などの一覧表を作成する）。

（２）作品集ごとに漢文体笑話の典故と影響関係の検討。その際『江戸小咄辞典』『江戸小咄類話事典』、『噺本大系』などを参考にする。

（３）漢文笑話体作家についての検討。個別の作品集ごとに作家の履歴、出版とのかかわりについての調査。

（４）当時の漢学の流布及び書籍蒐集と流布の調査。

（５）日中笑話作品の作者の比較による日本側作家の特徴についての考察。

（６）漢文笑話の内容と序から見た漢文笑話編纂の意図についての再検討。
（７）江戸時代の漢文笑話小説誕生の状況から近世日本人の思考様式の一端を紹介し、日本的「笑い」の流れを導き出す。

４．研究成果
（１）本研究は、江戸中期頃から本格的に作られていった日本漢文体笑話本について、まず、その全体像を見るため、版本調査を行った。ついで、その調査に基づき、作者、作品成立年代、所蔵状況、出版に至る経緯などの一覧表を作成した。
（２）その後、調査した漢文笑話集 30 数種の作品集の中から、漢文笑話本の嚆矢である『訳準開口新語』(『未翻刻江戸小咄本十一集』、『噺本大系第 20』、および『日本漢文小説叢刊』所収)を選び、作品訓読を行い、個々の笑話 100 話について、先行する江戸小咄・先行する中国笑話・中国由来の典故・日本由来の典故・その後の日本小咄への影響に関する一覧表作った。また、作品の特徴、中国笑話とのかかわり、その後の漢文笑話への影響などについて分析し、これらの調査・考察結果を、論文「漢文笑話『訳準開口新語』について」(『富山大学人文学部紀要』第 53 号)として発表した。
（３）一方、『善謔随訳』『囲譚』などの笑話本についても考察を行い、「遊廓案内とその物語『風月機関と明清文学』」(『東方』356)の中で、笑話における江戸の遊廓文化の描写という側面から報告した。
（４）また、越中高岡の漢学者による笑話本『囲譚』を、作品の特徴、作品成立の背景の面から考察し、「高岡の漢学者・寺崎脇洲-その笑話「囲譚」の世界」(『富山大学人文学部紀要』第 55 号）、「日本漢学者寺崎蛻洲與笑話集《囲譚》」(『海外漢籍與中国文学研究国際学術研討会論文集』)としてまとめた。「囲譚」に関しては、調査の中で草稿本も発見し、刊本所収以外の作品についても考察することが叶った。また、その著者寺崎には、当該笑話集以外に漢文説話集・蛻洲餘珠」(笑いのエッセンスを含む)が存在することを確認し、地方における漢文受容の実態を具体的に考察したが、この成果は平成 24・25 年度富山大学人文学部中国言語文化特殊講義にて講じた。著者の寺崎蛻洲については、漢文笑話の特徴と制作の意図、地方における漢学者の役割などの側面から考察し、『江戸の笑い』(桂書房)として出版した。
（５）ほかに、江戸中期の笑話本『善謔随訳』と『前戯録』についても考察を行った。前者の解釈と分析を中心とした成果は、『富山大学人文学部紀要』第 56 号に「『善謔随訳』を読む」と題して、原文に訓読と現代語訳を施し、解釈（類話とのかかわりを含む）を加えた。
（６）『前戯録』については、訓読と現代語訳を施し、解釈（類話とのかかわりを含む）を加えたのち、本作品集は、韻文と散文によって、中国の様々な文体をまねて戯作化したユニークな狂詩狂文集で、笑話はその中の一部に過ぎないものであることを明らかにした。
（７）ついで、『訳準笑話』、『笑堂福聚』の原文の訓読と現代語訳および解釈を行い、平成 24・25 年度に富山大学人文科学研究科にて両者の作品集を題材とした講義を行ったが、その成果の一般公開については準備中である。
（８）以上の、具体的な作品の訳読によって、個々の作品集の特徴と編纂の意図、江戸小咄や中国笑話とのかかわり、使用語彙から見る漢籍需要の実態、漢文学習における漢文笑話の持つ意味について明らかにすることができた。また、日本の笑いの特質についても、中国漢文笑話との比較において明らかになった。
　このような一連の成果は、江戸時代における漢文学の受容と展開、江戸小咄における漢文笑話の役割、地方における漢学振興と笑話の役割などの点において、先行論稿にない具体性を備えたものになっていると思われる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）
①<u>磯部祐子</u>、 "漢文笑話『訳準開口新語』について" 、富山大学人文学部紀要、第 53 号、pp.77-102 (2010)、 査読無、
http://utomir.lib.u-toyama.ac.jp/dspace/handle/10110/5985
②<u>磯部祐子</u>、 "遊廓案内とその物語『風月機関と明清文学』" 東方 356、pp.22-25 (2010)、査読有、
https://www.toho-shoten.co.jp/export/sites/default/review/toho356-
③<u>磯部祐子</u>、〝高岡の漢学者・寺崎蛻洲―その笑話「囲譚」の世界〞、富山大学人文学部紀要、第 55 号、pp.77-114(2011)、査読無、
http://utomir.lib.u-toyama.ac.jp/dspace/handle/10110/5985
④<u>磯部祐子</u>、〝日本漢学者寺崎蛻洲與笑話集《囲譚》〞、海外漢籍與中国文学研究国際学術研討会論文集、pp.123-142(2011)、査読無
⑤<u>磯部祐子</u>、〝『善謔随訳』を読む(一)〞、富山大学人文学部紀要、第 57 号、pp.212-242(2011)、査読無、
http://utomir.lib.u-toyama.ac.jp/dspace/handle/10110/5985
⑥<u>磯部祐子</u>、〝日本漢文小説「囲譚」考〞、域外漢籍研究集刊、第 8 輯、pp.195-220（2012)、査読有、
⑦<u>磯部祐子</u>、〝『善戯録』を読む〞、富山大学人文学部紀要、第 59 号、pp.151-184（2013)、査読無、
http://utomir.lib.u-toyama.ac.jp/dspace/han

dle/10110/5985
⑧磯部祐子、〝『善謔随訳』を読む(二)″、富山大学人文学部紀要、第 61 号（2014 投稿中)、査読無、
http://utomir.lib.u-toyama.ac.jp/dspace/handle/10110/5985（予定）

〔学会発表〕（計１件）
磯部祐子、日本漢学者寺崎蛟洲與笑話集《困譚》、《海外漢籍與中国文学研究》国際学術研討会、2011 年 5 月 14 日、マカオ大学

〔図書〕（計　1　件）
磯部祐子　、江戸の笑い、桂書房・全 121 頁・2012 年

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
　磯部　祐子（Isobe,Yuko）
　富山大学・人文学部・教授
　研究者番号：00161696